

第 24 回 熊野灘の漁業を考える ―磯根資源の持続的な利用―  
(開催案内)

日 時：2015 年 2 月 21 日 (土) 13:00～17:00

場 所：かもめホール (鳥羽市商工会議所) 鳥羽市大明東町 1 - 7

共 催：水産海洋学会, 熊野灘漁業を考える会, 三重県水産研究所, 鳥羽市, 志摩市

コンビナー：伊藤宣毅 (考える会), 山川 卓 (東大院農), 山田浩且, 松田浩一 (三重水研)  
津本欣吾 (三重農水)

総合司会：水野知巳 (三重水研)

挨拶：和田時夫 (水産海洋学会長), 木下憲一 (鳥羽市副市長), 伊藤宣毅 (考える会代表)

趣旨説明：遠藤晃平 (三重水研)

特別講演 海女の営みを守る～磯根資源の再生と環境保全～ 石原義剛 (海の博物館)

話題提供

座長 山田浩且 (三重水研), 水口忠久 (考える会)

磯根資源の変動要因 山川 卓 (東大院農)

海藻類の管理と増養殖 前川行幸 (三重大院生資)

イセエビの漁獲状況と増殖に向けた研究 松田浩一 (三重水研)

鳥羽市における海藻食文化と新しい海藻類の生産技術 岩尾豊紀 (鳥羽市水研)

総合討論

座長 山川 卓 (東大院農), 竹内淳一 (元和歌山水試)

現場漁業者の声 海女等 2 名程度

**開催趣旨**：近年、遠洋・沖合漁業による漁業生産が低下し、沿岸漁業の重要性が増す中で、イセエビ、アワビ類、海藻類等、沿岸漁業を支える磯根資源の役割は益々大きくなっている。これら磯根資源は、漁村の地先で容易に漁獲することができることから、昔から身近な水産資源として親しまれ、利用されてきた。また他地区の海域への移動が小さいことから、各漁村において古くから資源管理が行われるとともに、増殖のための種々の取り組みも実施されてきた。しかしながら、このような努力にもかかわらずアワビ類や一部の海藻類など資源量が減少しているものもあり、磯場の環境変化が見られる中、これまでの資源管理方策や増殖手法が機能しなくなっている可能性がある。今回のシンポジウムでは、磯根資源の持続的な利用を進めるために、磯場周辺の環境変化や磯根資源の現状を理解し、今後どのような資源管理方策や増殖手法の導入が有効か、について多方面から議論し、今後の取り組みにつなげることを目的とする。